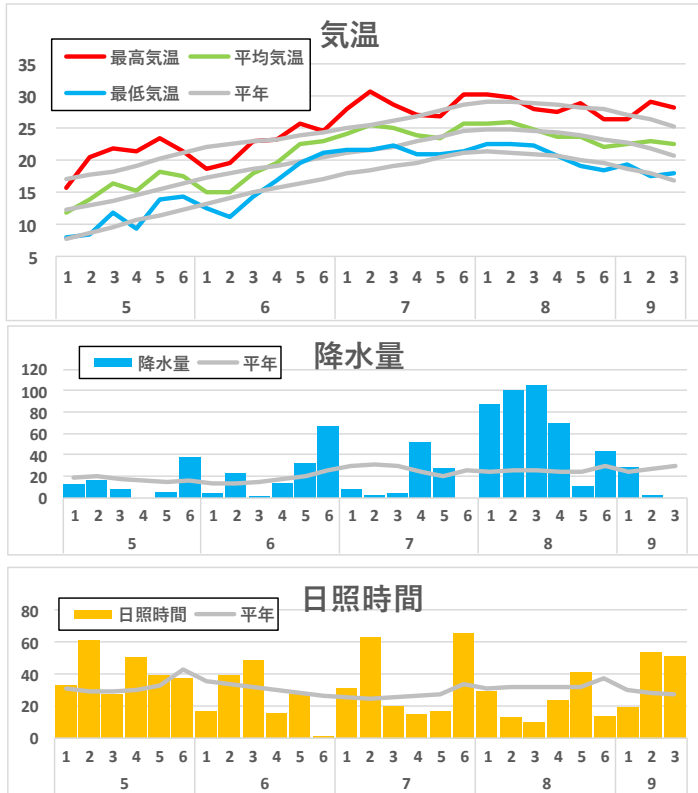


ほ場ごとの刈取適期を確認しましょう

農作業事故に注意しましょう!

1 気象経過と生育状況

これまでの気象経過 (アメダスポイント: 能代)



【気象経過】

生育期間中の気温は、5月は平年より高かったものの、生育初期の6月前半は低くなりました。その後気温は平年よりも高く推移し、7月下旬からはほぼ平年並みに推移しています。

降水量は、5～6月は平均するとほぼ平年並みだったものの、7月は平年よりも少なくなりました。また、8月は2～3日に87mm、9～12日に170mmと強い降雨があり、1ヶ月の降水量は平年の265%となりました。

日照時間は、5月と7月は平年よりやや多かったものの、6月は平年の79%、8月は平年の66%と少なくなりました。9月は平年よりも多くなり、平年の145%となりました。

【生育状況】

成熟期の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種:あきたこまち)の平年と比べた生育は、稈長がやや長く穂長が平年並みとなっています。また、6月の低温・日照不足の影響で穂数は少ないものの、一穂着粒数が多いため、㎡あたりの着粒数は平年並みとなっています。倒伏程度については、平年よりやや小さい状況となっています。

○定点調査結果 (9月6日までの調査結果より)

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	有効茎 歩合(%)	着粒数		倒伏程度 (0~5)
					(粒/穂)	(粒/㎡)	
本年	85.9	18.2	380	89.8	89.2	33,803	0.3
平年	81.8	18.0	453	81.8	74.4	33,541	0.5
前年	85.3	18.6	446	80.6	79.3	36,030	0.2
平年比較	105%	101%	87%	8.0	120%	101%	-0.2
前年比較	101%	98%	85%	9.2	112%	94%	0.1

※平年は過去10力年の9月15日現在の平均値

2 刈取適期の判定

○管内の出穂盛期（50％）は平年より1日早い8月1日でした。積算気温による刈取目安によると、あきたこまちの場合、出穂期が8月1日であれば9月11日に収穫期からの積算気温950℃を超える予想となっています。

○実際の刈取適期は、収量（着粒数）や施肥体系等によっても前後しますので、出穂期からの積算気温を参考として、最終的な刈取時期の決定は、各ほ場の籾の黄化程度を確認し、黄化程度が90%に達した時期で判断してください。

○積算気温到達日予想

出穂期	950℃	1,050℃	1,150℃
7月29日	9月7日	9月11日	9月16日
8月1日	9月10日	9月15日	9月20日
8月4日	9月14日	9月19日	9月24日
8月7日	9月17日	9月23日	9月28日
8月10日	9月21日	9月27日	10月3日

※アメダス能代データ。9月16日以降は平年値を使用。

【刈取適期の判定基準】

①籾の熟色

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%（黄色＋黄白色の籾数の割合）の頃

②出穂後の日数

早生種：あきたこまち等・・・出穂後45日頃
中晩生種：めんこいな・ゆめおぼこ等・・・出穂後50日頃

③出穂後の積算気温（出穂期翌日から日平均気温を積算した値）

早生種：あきたこまち等・・・950～1,050℃
中晩生種：めんこいな・・・1,050℃
ひとめぼれ、ゆめおぼこ等・・・1,050～1,150℃

刈取時期決定

3 収穫～調製の留意点

○収穫時の籾水分は25%以下が望ましいため、作業時間帯は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に設定しましょう。

○米選機の網目は1.9mmを基準とし、整粒歩合80%以上の高品質米を目指しましょう。

■秋の農作業事故に注意しましょう！（秋の農作業安全運動9月10日～10月20日）

秋の農作業はコンバイン操作や籾の搬送作業等での事故が多くなります。計画的な作業に努め、十分な休憩を取って事故の無いように注意しましょう！

■稲わら等は有機物資源として有効活用しましょう！

稲わら焼きは県条例で原則禁止されています。特に、周辺に影響が出やすい10月1日～11月10日までの間、全面的に禁止しています。

不明な点がございましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課（TEL52-1241）までご連絡ください。